（様式4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1270700303		
法人名	株式会社　和芳		
事業所名	グループホーム双葉		
所在地	千葉県銚子市松本町２－８１０－１０		
自己評価作成日	令和2年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2020/11/17

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者のこれまでの生活スタイルを大切に考え、安心して過ごせる家庭的で暖かい施設づくりに取り組んでいます。入居者も高齢で車椅子を使用する方もいますが、全面バリアフリーになっていて十分安心して過ごせるようになっています。リビングホールに設置してある床暖房はとても暖かく、快適に過ごせる環境づくりに配慮しています。また、協力医療機関との連携を密にし、随時対応できる態勢を整えています。市関連や地域の方々の訪問、見学を通し交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホーム双葉」は小規模多機能施設が併設されており、施設同士が日頃から合同イベント等で交流を行う等、入居者の馴染み関係継続や生活活性化を図っている。また、ボランティアや職業体験の受け入れ、地域行事の参加、外出活動等を通して、地域との繋がりを大切にした運営を行っているが、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、交流や活動は中止している。定期的に施設広報誌「双葉ニュース」を発行し、運営推進会議での活用や地域への配布を行う等、施設の理解促進や地域交流に取り組むと共に、入居者家族へ送付しており、信頼関係構築にも活かしている。法人グループの医療法人とは、健康管理・職員からの相談対応・家族への説明等、医療面での協力体制が構築されており、更には緊急時・急変時・終末期等、変化に応じた支援も可能となっており、入居者や家族の安心にも繋がっている。他にも、銚子市の包括支援センターとしての役割も担っており、法人グループ全体が市と相互に連携し、地域高齢者の問題解決やケアサービスの推進に取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、事業所の基本理念に基づいた支援、介護を実践しているか確認し合っている。また、運営方針や目標を話し合い理念の実践に取り組んでいる。	「入居者の主体性を大切にし、地域に根差した共同生活の場の提供」と言う施設理念を掲げると共に、理念を施設内に掲示し、入居者・家族・職員・外部の人達への周知を図っている。全職員が日々のケアの中で、理念に基づいたサービス提供の確認や研修等を活用し意識の統一に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	双葉ニュースを隔月発行し地域に回覧したり、ボランティアの受け入れで交流を深めている。近隣の住民の方々や保育園児の散歩時に談笑し合えるなじみの関係を築いている。	地域住民の一員として自治会に加入すると共に、地域行事への参加やボランティア受入れ等、地域との交流に積極的に取り組んでいる。また、職業体験や実習生受け入れも行っており、世代間交流の機会も設けている。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への対応方法について、市役所・認知症サポーターズ講習への協力、参加を行っている。また、研修生の受け入れや地域中学生の職場体験学習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し、利用者の状況説明、行事、ボランティアの受け入れ等の報告及び意見交換を行っている。また、外部評価結果について書面により会議に報告を行っている。	地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民・有識者・入居者・家族・職員等を構成員として、2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では施設活動の報告や意見・情報交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙がった意見をサービスの質向上に活かしている。しかし、新型コロナウイルス感染対策の為、令和2年5月以降の会議は中止になっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢者福祉課が開催する認知症ケア会議や研修に参加し、他の事業者と情報交換したり、事例を通じて対応策を協議、相談して良好な協力関係を築いている。	日頃から市に対して、業務全般における報告・相談等を行うと共に、運営推進会議を通じて、意見や情報交換を行う等、サービスの質の向上に向け連携を図っている。また、市主催の会議や研修を通じて、市との協議・事例検討を行う等、相互に地域高齢者福祉の課題解決に向け取り組む体制が構築されている。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、会議や研修は中止になっており、文書や電話等で連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県主催の研修会への参加や市の認知症ケア会議で意見を聞いたり、身体拘束の具体例を職員全員が理解して業務に生かしている。適切な介護のためのマニュアルを利用してミーティングを行い、ケア方針の共有を図っている。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備すると共に、内部研修の実施や外部研修への参加啓発を行う等、全職員に向け、身体拘束排除の理解促進を図っている。また、定期的に身体拘束廃止委員会を実施しており、適切な支援に繋げている。入居者・家族と同意書を交わしており、施設の方針や取り組み等については、家族から理解が得られている。身体拘束が必要な場合は、説明書と経過報告を整備し、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で具体的な虐待事例などを共有し、虐待が起きないよう全職員で取り組んでいる。また、研修会への参加を積極的に実施し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や公的機関が開催する研修会や講習会等に参加し、その必要性や活用方法を学んでいる。成年後見人を介しての利用や支援実績もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時に、利用者、家族が不安に思っていること、疑問点に思っていることを伺って、わかりやすく説明し、不安解消に努めている。契約改定があった場合は、改定趣旨を文書で説明し理解を得るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。アンケートの実施や家族来訪時に要望や苦情等を伺い運営に反映できるよう心掛けている。また、利用者の意見や不満等は、個別に話し合う機会を設けたり、市等への相談を促す等解決を図ってきている。	家族の面会時・電話連絡・運営推進会議等を活用して家族の意見・要望を確認している。また、定期的に「双葉ニュース」を家族に送付し、毎月行っているレクリエーション活動の様子などを報告していると共に、個別対応の機会を設ける等、信頼関係構築にも努めている。挙がった意見・要望等においては、会議での検討や全職員への周知徹底を図る等、サービスの質の確保・向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回管理者会議を開催し、時には運営者、事務方も参加し、直接意見や提案を話す機会を設け運営に反映させている。職員ミーティングは月1回程度開催、提案の検討、問題点の把握に努めている。	定期的に職員ミーティングを開催し、全職員から意見・提案等を確認する機会を設けている。挙がった意見・要望・情報等は全体会議や幹部会にて検討を図り、ケアに反映させている。内部研修の実施・外部の研修への参加啓発及び研修費用の支援等、研修参加の機会を確保し、施設や地域のサービス向上を目指した人材育成に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいような環境整備に努めている。介護職員処遇改善加算及び介護職員等特定処遇改善加算を申請し、介護職員の収入増を図った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修や地域で開催する研修に参加して介護の向上に努めたり、通信教育、資格取得、各種講座への受講支援を図り、その研修報告を行い情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークや地域部会を通じて勉強会に参加し、困難事例の問題を共有したり、意見交換をしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に沿えるように話しやすい環境作りを心掛けていtる。相談時から利用に至るまでの不安解消に努め、要望を取り入れて安心して暮らすことができるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時や電話相談があったときは、職員全員が真摯に時間をかけて傾聴し、困難事項や今一番求めていることなどを受けとめることができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に提供票等を参考にし、本人・家族が何を必要としているかを見極め、必要に応じて他のサービスの利用などをアドバイスできる態勢をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付け、洗濯物をたたむなど、一緒に作業しながら日常生活の中で、細かい相手への思いやりや、各自の想いに触れ、時に学び、時に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援困難時や本人が不安そうな時は、家族の方にホームに出向いていただいたり、電話で相談するなど、介護について協力いただいている。第三者を交えた家族会を開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問が気軽にできるよう施設を開放している。家族との外出や外泊は自由になっており、本人と家族の関係維持に気を配っている。今年は、新型コロナ感染予防の観点からある程度の制限はやむを得ないと考えます。	地域の商店への買物や地域行事への参加等、馴染みの場所への外出を支援している。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族関係継続も支援している。入居者一人ひとりの希望に応じた少人数や個別での外出も実施している。他にも、併設の小規模多機能施設とは合同行事を通して交流が盛んに行われており、馴染みの関係継続や新たな馴染みの関係構築の機会となっている。しかし、新型コロナウイルス感染対策の為、今年度は、家族との外出や外泊は実施しておらず、短時間の面会や電話連絡で相互の関係を大切にしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの能力を生かして、お互い支えあえるような関係になれるよう配慮している。それぞれの性格を生かし、手伝いあったり、助け合ったり、また、世話役の方がうまく力を発揮できるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族が訪問しやすく、相談しやすい雰囲気を作れるよう常に心掛け、相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の体調や気持ちの変化に合わせた意向の汲み取りができるよう家族とも連携しながら対応している。また、職員全員で情報を共有して本人本位の暮らし方ができるよう日々検討している。	入所時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行うと共に、必要に応じて、医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、情報の把握に努めている。入居後は、生活の様子や会話等から意向をくみ取ると共に、家族との話し合いや定期的に職員間で検討を行い、その人らしい生活に向けた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から今までの経験や生活歴を把握し、馴染みの暮らし方を理解するよう努めている。また、これまでのサービス利用の経過等を把握したうえで、その人らしい暮らしや尊厳が保てるように支えていく努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、現状で保有している能力を客観的に把握し、本人が暮らしやすく穏やかに過ごせるよう、常に職員間で情報の共有に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の想いや望みを把握し、可能な限り介護計画に取り入れている。介護計画は職員全員で意見交換し、本人本位に立って計画作成者が取り纏め作成している。	本人・家族の意向や記録を基に介護計画の原案を作成し、全職員にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、家族の要望や状況の変化に応じて介護計画の見直しを実施している。また、医師や訪問看護師の意見も取り入れており、現状に即した介護計画の作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきケアを実践し、結果や気付き、工夫を個別記録に記入している。それを職員全員が目を通し、日々新しい情報を共有しながら支援に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する小規模多機能ホーム利用者との交流や共同支援により、生き生きとした生活が送れるよう取り組んでいる。また、その時々の要望に対応できるよう、各分野から専門スタッフのアドバイスを受け柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活の安定を支援できるよう、必要に応じてボランティア、民生委員、警察、消防、教育機関等の協力が得られるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診には、職員と家族協力して適切な医療を受けられるよう支援している。受診事実を記録し、家族へ随時報告している。必要に応じて管理者と共同してかかりつけ医への相談をおこなうなどして支援している。	協力病院や希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。同法人グループの医療法人が協力病院であり、緊急時・急変時・往診時・終末期等においては協力体制が整備されている。また、訪問看護による健康管理や医療面での相談・助言・対応等が行われており、入居者・家族・職員の安心にも繋がっている。その他にも、医療に関する研修に力を入れており、支援体制の強化にも取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション双葉との協働により、利用者の変化を把握し、看護、介護に生かしている。また、地域の看護職員との連携もとれていて気軽に相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制は整っている。医療機関と今後の対応について情報交換を欠かさないようにしている。また、安心して治療に専念できるよう態勢を整え、入退院時に支障のないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、家族、医師、職員、看護師で話し合いケア方針を共有している。日常生活での変化や体調に注意し、機能低下に対応した態勢を築いている。また、終末期に関して、方針を説明し、同意書を受領して介護計画を作成している。	重度化・終末期においては指針を明文化し、入居者・家族への説明を行い、同意も得ている。重度化・終末期においては、全職員が入居者・家族の意向を踏まえ、支援方法の検討・ケアの統一を図りながら、出来る限りの支援を行っている。日頃から医療面においては協力病院の医師や訪問看護の看護師等と連携を図る等、状況の変化やニーズに応じた適切な支援に向け体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変利用者対応、事故発生時の対応等のマニュアルを作成済み。日頃から利用者の身体的特徴の把握、事故対応等の職員研修を実施。また、応急手当、初期対応の訓練を定期的に実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成。避難経路図を掲示し、いざというときに備えている。消防避難訓練を年2回実施。特に、夜間人手不足時の対応に近隣の協力が得られるよう訪問し協力依頼している。運営推進会議メンバーへの協力依頼も行っている。	緊急時・災害時マニュアルを整備すると共に、避難経路図の作成・掲示・複数の避難経路も確保している。また、消火器・自動火災報知機等の機器を設置し、災害時・緊急時に備えている。年2回、消防避難訓練を実施しており、夜間想定訓練・消火器訓練・通報訓練等を通して、状況に応じた避難や対応の方法を確認している。他にも、併設の小規模多機能施設が市から災害時避難場所としての指定を受ける等、市とは災害時の協力体制が整備されている。また、併設の小規模多機能施設にAEDが設置されており、必要時に使用が可能となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や人格を尊重し、おおげさな言動や非現実的な言動であっても、穏やかな心で傾聴し「寄り添う介護」を心掛けている。個人のプライバシーを尊重し、プライドを傷つけることのないように周知している。	会議・研修等でプライバシー保護や接遇についての指導を行っている。日頃から理念である「入居者の主体性の尊重」を意識し、職員間で入居者一人ひとりに合わせた言葉掛けや介助方法の確認を行いながら、日々の業務に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者への言葉かけに心掛けている。希望の表出には静かに傾聴し、気軽に何でも話せる環境づくりを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に傾聴し、優先順位を見極め、十分なコミュニケーションを取りながら、日々の生活や時間を大切に過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力いただき、本人の好みのものや衣類を用意してもらっている。それが困難なときは職員が用意したりして希望に沿えるよう支援している。定期的な美容師の来訪で身だしなみも整っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は大切な時間であり、体調が悪くない限り同じテーブルで会話をしながら楽しく食事がとれるように支援している。数人の方は職員といっしょに食事前後のテーブル拭きや食事の準備を行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・配膳・後片付けを職員と協働で行っている。献立や食材の購入は、職員が行っており、入居者の嗜好や要望を取り入れた食事提供がなされている。定期的に手作りおやつ・お好み食・行事食等を提供しており、食に対する様々楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、少ない場合は間食等で補うなど、本人が必要な水分補給できるよう配慮している。バランスの摂れた献立を、利用者の能力、好みに合わせて食べやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。本人ができない場合は職員が介助。呑み込みが悪い利用者が増えているため誤嚥性肺炎にならないように気を配っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チエックリストを活用して、一人ひとりの排泄の状況を把握し、トイレに行きたいときの行動サインを見守り、声掛け誘導、身体状況に応じた介助を心掛けている。	排泄チェックリストを活用しながら一人ひとりの排泄パターンの把握に努めると共に、適切な声かけ・トイレ誘導を行い、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。夜間は、入居者の能力や状況に配慮しながらトイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、食事の工夫・日常の運動・医師や看護師との連携等、適切な排泄習慣の確保にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの摂れた食事、こまめな水分補給、毎日牛乳を飲む習慣や、体操や散歩、身体を動かす働きかけをしながら便秘予防に取り組んでいる。好みの飲み物で無理なく水分補給を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室に暖房機を設置し、より快適に入浴できるようになった。また、入浴が楽しいときになるように職員１対１で対応。入浴したがらない場合は、本人の希望に沿えるように清拭や陰洗、衣服の交換などで、清潔に過ごせるよう支援している。	浴室は、暖房・トイレが設置されており、安全で快適な入浴ができるように配慮されている。入浴は希望や体調に応じて回数・時間等、柔軟に対応している。また、必要に応じて清拭・部分浴・シャワー浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのプライベートな時間を穏やかに過ごせるように支援している。食後に自室でゆっくり休息を取りたいなどの思いに沿って、適度に見守り、声掛けして、安心できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認の徹底。すぐ目を通せるように個人服薬ファイルを作っている。服薬が変わったときは伝達周知して、服薬後に変化があれば随時Drに報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事、やりがいを無理なく行えるように支援している。（新聞の読み聞かせ、お盆を拭く、エプロンをたたむ等日常の何気ない中で）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に同行して公園で日光浴。希望があれば、ファミリーレストランでの外食やスーパーでの買い物の支援。また、花見、イベント等の季節を感じられる外出支援。好きなお菓子の買い物同行でなじみの店との交流を支援している。今年は、新型コロナ感染の心配から外出は控えている。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行っている。担当者が外出行事を計画・実施しており、室内・戸外での楽しみを支援している。また、地域行事・催し物・集会等にも積極的に参加しており、地域住民の協力や交流を広げ、施設・入居者の理解促進や生活活性化に繋げている。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、散歩は実施しているが、買い物・ドライブ・行事参加等の外出活動は中止している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力量に応じ、お金を所持したり使えるように支援している。家族との外出時に買い物をしたり、職員と一緒に買い物に行き、必要なものを買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を聞いて、ホームの携帯電話で家族に連絡し談話している。知人や家族の来訪後のお礼の電話などもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは窓から庭が見え、季節の草花が楽しめる。日当たりもよく、明るい。また、床暖房で居心地良く過ごしている。トイレは介助のたびに除菌、清掃を行い気持ちよく使用できるようにしている。	施設内はバリアフリーで、十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全面に配慮した施設となっている。共有スペースは日当たりが良く、窓からは人や電車の行き来を望む事が出来、気軽に外の風景を楽しめる住居環境となっている。施設内は清掃・除菌を徹底しており、清潔で快適に過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は自分の居心地の良い場所で過ごせるように工夫している。利用者同士が協力し合えるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、馴染みの家具や身の回り品、衣服の持ち込み、家族の写真等で今までの生活が継続できるようになっている。また、全居室にエアコンを設置、過ごしやすい空調管理に配慮している。	入居者・家族の要望により馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。入居者一人ひとりの身体状況・生活歴・個性に配慮し、居室の表札・飾り付け・掲示方法に工夫を凝らす等、その人らしく過ごせる居室環境作りを行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリー。手すりを増設し、歩行やトイレ誘導が安全、スムーズに行えるよう配慮している。できるだけ自立した生活が送れるよう改善工夫している。		